

事務所だより H23年6月号

今月も宜しくお願い致します。

安藤社会保険労務士事務所

(ご挨拶)

こんにちは。いつも大変お世話になっております。例年よりも随分と早い5月での梅雨入りとなり、暑かったり、寒かったりと変化が激しく体調管理が難しいですね。

ところでこれからの3ヶ月間は、社労士事務所にとっては、労働保険年度更新業務、社会保険算定基礎業務と年に一番の繁忙期に入りますが、暑さに負けず、いろいろな工夫しながらなんとか乗り切りたいと思っています。皆様方には、これから賃金台帳などの書類をご用意いただくことになるかと思いますが、何卒ご協力の程よろしくお願い致します。

今月もどうぞよろしくお願い致します。

安藤



今月のトピックス

「ボランティア休暇」導入企業が増加中!

企業CSRの要請と従業員からの要望

東日本大震災の発生をきっかけとして、企業が、従業員のボランティア活動を目的とした特別休暇(ボランティア休暇)を認め、制度として導入するケースが大手を中心に増えているようです。

これは、「企業は社会的責任(CSR)を果たすべき」という要請と同時に、従業員からの要望も増えていることが背景にあるようです。

具体的な導入事例

制度を導入したと報道された企業は、SMBC日興証券(最大3日間。有給休暇との組合せで最大16日間)、さわやか信用金庫(最大5日間)、トリンプ・インターナショナル・ジャパン(9月末までに最大14日間)、ワコール

(8月末までに最大連続20日間)などです。

なお、厚生労働省の調査(2007年実施)によれば、ボランティア休暇制度を導入している企業(従業員1,000人以上)の割合は、17.7%だそうです。

ボランティア活動中の労災適用は?

会社が認めたボランティア休暇中に従業員が被災地で怪我をした場合などは、労災は認められるのでしょうか?

労災と認められるためには、「業務」に起因している必要があるため、休暇中に本人の意思により場所や内容を選択しているボランティア中の怪我については、原則労災の適用はありません。会社側が、業務指示としてボランティア活動の内容や場所を指定して従事させた場合には主張扱いとなり原則労災適用が認められます。

ボランティア本人の活動中の怪我、その他ボランティア活動中に他人に対して損害を与えたことにより損害賠償問題が生じる可能性なども想定されるため各種損害保険への加入についても検討する必要があるでしょう。

安藤

今月のトピックス

夏場の「電力不足・節電」に向けた企業の対応!

政府要請への対応

政府による、福島第一原発での事故に伴う最大使用電力の削減要請、浜岡原発の運転停止などを受け、企業では、電力が不足するとされる夏場において、いかに「電力不足・節電」に対応するかが課題となっています。

夏季休暇の取り方などに工夫

大手企業では、「電力不足・節電」への対応として、すでに夏季休暇の取り方などについての方針を発表しているところもあります。主な内容は以下の通りです。

安藤社会保険労務士事務所

(1) 期間の延長・拡大(ニコン、ゼリア新薬工業など)

(2) まとめての取得(NTT、文化シャッターなど)

(3) 取得時期の分散(NEC、東芝など)
節電の具体策

企業ができる節電のための具体策としては、次のようなことが考えられます。

(1) 照明関係...看板・ショーウィンドーの消灯、LED電球への切替え

(2) 設備関係...エレベーターの運転削減、パソコンの小まめな電源停止

(3) エアコン・空調...冷房温度の引上げ、クールビズの強化

(4) その他...自家発電機の導入など
勤務体系の見直し

また、在宅勤務制度の導入など勤務体系の見直しについても具体的な事例について新聞報道されています。

在宅勤務制度 KDDI、帝人など

週休3日制 コマツ、図書印刷など

7月~9月の間で実施

サマータイム 東京証券取引所、ソニー

就業時間を1時間前倒し

輪番休業 キューピー

7月~9月の間にフロアごとに実施

休日シフト 住友生命保険

支社・支店で土曜日に出勤して平日

休む「店舗休業」を7月から導入

勤務体系の見直しを検討されるにあたり不明点等あればお気軽にお問い合わせください。



熱中症対策について

梅雨が明けると、これからの暑さに向け「熱中症」対策が必要となってきます。今回は、熱中症の対策などについて少々ご紹介したいと思います。

<熱中症の原因は?>

体温よりも気温が低ければ皮膚から空気中へ熱が移りやすく体温の上昇を抑えられ、また湿度が低ければ汗をかく事で熱が奪われ体温をコントロールすることができます。しかし気温が体温より高く、さらに湿度も高いと体内の熱を放出するのが難しく、汗をかいてもなかなか蒸発しにくくなり、体温調節がコントロールできなくなり体温がグングン上昇してしまいます。結果、頭痛や吐き気、めまい、失神、熱けいれん等のいわゆる熱中症の症状が出てきてしまいます。

<熱中症の予防は?>

こまめな水分補給(喉が渴いたと実感する前に摂取する)

服装を工夫する(首周りを締め付けない、汗を吸い取りやすい物にする)

暑さに強い体力作り

不規則な生活は避ける(睡眠不足、食事を抜くなど)

個人が気をつけるのはもちろんですが、職場などで過ごしている場合はお互いの注意も重要です。熱中症は5月頃から発生し、7月下旬から8月上旬がピークといわれています。また、今年は例年と違い「節電」という大きな課題もあります。今から体調を整え「暑さに慣れる」体づくりを心がけたいと思います。今年は、男性の日傘が一般的になるかもしれません。

清司(せいじ)